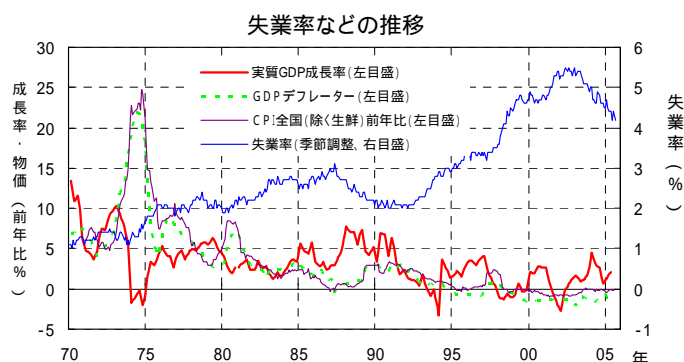


1. 参考文献

- ・「仕事の中の曖昧な不安 揺れる若年の現在」玄田有史、中公文庫、2005年

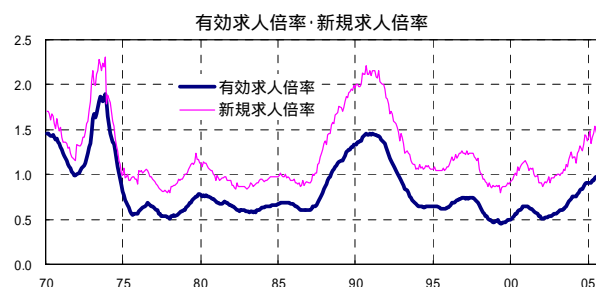
2. 完全失業率

- ・総務省統計局の「労働力調査」の一項目。
4万世帯の15歳以上の者 約10万人を調査
- ・完全失業者の定義：かなり厳しい条件
就業者でない(仕事をしないが休業者でない) &
仕事があればすぐつける & 仕事を探していた
- ・完全失業率 = 完全失業者 / 労働力人口 × 100
- ・高度成長期1%台 バブル期まで2%台(一時低下) 約10年間じりじりと増加した後、2003年頃から低下に転じて現在4%台の前半に
景気の動きに遅れて反応する・・・**遅行指標**とされる
- ・失業者の属性に関する幅広い情報がとれる
男女別、年齢別、都道府県別などの統計もある。また、求職理由別(勤め先都合、自己都合等)から自発的失業か非自発的失業かの見当もつけられる。
- ・他の先進国と比べれば失業率は高くない?(特に欧州大陸諸国との比較で)



3. 有効求人倍率・新規求人倍率

- ・厚生労働省の「職業安定業務統計」の一項目
有効求人倍率、新規求人倍率とも季節調整値
でみるとよい：「求人数 / 求職数」の倍率を示す
産業別、パートタイムなどの求人数もとれる
(「新規学卒者を除きパートタイムを含む」の数字が重要)
- ・1を超えるかどうかが大変な判断基準：求人数が十分あるかどうかの指標
- ・雇用のミスマッチが大きい：年齢、職種、給料などの不一致によるもの
折角求人があっても条件面で折り合わないため。これは、自発的失業の一種?



4. その他の失業関係の話題

- ・他の重要な雇用関連統計：毎月勤労統計調査、雇用動向調査、短観の雇用人員判断D.I.等
- ・失業率には大きな地域間格差 日本国内では労働者の移動は自由な筈
沖縄や近畿で高い 北陸、山陰、東海は低い
- ・自然失業率はシフトしている? 雇用慣行の変化(終身雇用制)などから上昇している可能性も
構造改革と雇用の拡大 新しい需要を本当に創出できるかにかかる・・・知恵の出どころ

5. 若者の新しいタイプ：フリーターとニート

- ・フリーター：自由にアルバイトをする若者が増加傾向・・・夢を追う若者 vs 正社員になれない人
学生と主婦を除く15~34歳のうち、パート・アルバイトとして雇用されている or 希望している人
正社員とは異なり、社会保険、公的年金、有給休暇などを受けられない事例が一般的(低コストのため、大手企業のアウトソーシングの受け皿となることが多い)
- ・ニート(N.E.E.T.): Not in Employment, Education or Training 非労働力人口に含まれる
2002年には85万人(就業を希望しない42万人 + 求職活動をしていない43万人)との推計
親が元気に働いているうちはまだ良いが、引退した後はどうする? 以上